

平成27年1月教育委員会会議の要旨

1 日時

平成27年1月23日(金) 14時00分～15時25分

2 場所

山口市役所別館1階第2会議室

3 出席委員

大野委員長、國弘委員、宮原委員、横山委員、佐々木委員、竹内委員、岩城委員(教育長)

4 事務局

山根教育部長、田中教育部次長、眞砂教育総務課長、田中教育施設管理課長、
江山学校教育課長、上村社会教育課長、原田文化財保護課長、中原中央図書館長、
小野教育総務課主幹、中村教育総務課主査

(議案)

○議案第1号「教育財産への所管換えについて」

(概要)

教育財産への所管換えについて、承認された。

1. 内容

・不登校児童生徒の学校復帰を支援する適応指導教室の南部地域の拠点である「あすなろ第1教室」は老朽化が著しく、耐震性がないことから、小郡地域の市の遊休地を活用して新築移転するため、教育委員会に所管換えを行うもの

(主な意見や質疑)

意見： 移転場所は線路沿いであり、電車が通るときの音が気になるため、校舎を建てられるときには防音装置を設置していただきたい。

(報告事項)

○報告第1号「平成27年度全国学力・学習状況調査への参加について」

(概要)

平成27年度全国学力・学習状況調査への参加について、事務局から報告があった。

1. 内容

・小学6年生、中学3年生を対象として、平成27年4月21日に実施される全国学力・学習状況調査には、市内の全小中学校が参加するもの

(主な意見や質疑)

意見： 全国学力・学習状況調査では、どのように考えたから間違えたのか、どのように考えたらうまく答えられるのかななどを、各学校単位でしっかりと復習していただきたい。

意見	授業時数の調整が可能であれば、全国学力・学習状況調査終了後、授業の中で、復習として同じ問題に取り組んでみたらどうかと思う。
質問	学校に対する質問紙調査は、どのような質問をされ、それがどのようなことに活かされていくのか。
回答	学校の教育課程や普段の研修等がどのように実施されているかの質問である。この結果により、学校の研修や学力向上に対する取組がわかるため、各学校の弱い部分を強めていけるよう、校長に指導している。
質問	障害のある児童生徒に対しては、どのような配慮をされているのか。
回答	調査の実施については、保護者や本人に確認して、例えば、試験時間の延長の要望があれば、それを配慮し、実施している。

○報告第2号「平成27年山口市成人式の参加状況について」

(概要)

平成27年山口市成人式の参加状況について、事務局から報告があった。

1. 開催日
平成27年1月11日
2. 場所
山口市民会館
3. 内容
出席者1,489人

(主な意見や質疑)

質問： 大学や就職により、住民票はないが、事前に成人式への出席希望の連絡があった方の参加者が、なぜその対象者を上回る数字となっているのか。

回答： 出席希望の連絡をせず、当日参加された方が多かつたためである。

(協議事項)

○協議第1号「山口市学校施設整備方針の改定について」

(概要)

山口市学校施設整備方針の改定について、事務局から提案があり、協議した。

1. 提案理由
平成27年度末における学校施設の耐震化率100%が見込まれるにあたり、「施設の長寿命化」の推進など、今後の教育環境の整備・充実に向けた、山口市学校施設整備方針について協議するため。
2. 内容
 - ・学校施設整備の現状と課題
 - ・学校施設整備の基本方針
 - ・増改築等による施設整備
 - ・施設の長寿命化推進事業
 - ・安全で快適な学習環境の整備

(主な意見や質疑)

意見 :	大きな廊下に囲いをするなどの工夫をしながら、少人数指導のスペースを確保している学校があることも踏まえて、教室不足の解消に対応していただきたい。
意見 :	学校施設が災害時の避難所などの機能を併せ持つことによって、防災や地域づくりなどに関連した、市長部局との連携により、予算についても、より使える範囲が広がるのではないかと思う。
質問 :	落下防止対策として、天井裏のコンクリートなどを検査できるのか。
回答 :	改修サイクルの40年目には、天井材の張り替えや間仕切りの変更などを予定しているため、その中でコンクリートなどの検査も可能である。
質問 :	環境負荷の低減として、照明器具のLED化など、照明器具の更新については、どの程度進んでいるか。
回答 :	照明器具のLED化はまだ遅れているが、40ワットの蛍光灯を32ワットのHf形に替えるなど、省エネ効果が得られるものについては、耐震化工事に併せて実施している。
質問 :	遊具の約3分の1に手当てが必要ということであるが、1年間にどのくらいの手当てをされているのか。
回答 :	毎年、約10基~20基の手当てをしているところであるが、今後は、手当てをする遊具の数をもう少し増やしていきたいと考えている。